

3つの方向性に関する意見（発言要旨）

方向性① 南区独自の防災力向上モデル～“あたらしい共助”の輪を広げよう～

議論テーマ：高校生・若い世代への防災教育について

（高校生）

- ・ 防災の知識を得る機会は学校の避難訓練ぐらいしかなく、内容も形式的。
- ・ 二次災害防止のために、学校の避難訓練で運動場に避難したあとの行動について学びたい。
- ・ 小学校では消防士が講師となりテントの中で煙を体感する訓練をした。そのような体験は印象に残りやすい。
- ・ 地域の子ども会で防災センターに行き、強い風や地震の疑似体験などをしたことはあるが、機会は少ない。
- ・ 通学先の南区で発災の危険性の高い土砂災害について知識を得たい。
- ・ 消火器の使用経験はなく、ぜひ体験したいが、実物の火を消化することは難しいので、任天堂スイッチなどのゲームを活用するのも効果的ではないか。
- ・ 南区は高齢者が多いが、高校生は体力的にも戦力になる世代。高校生が発災時にどんな手助けができるか、何をすればよいかを教えておいてほしい。

（全体会構成員）

- ・ 体験は印象に残りやすい。また、実際にやったことがないと、いざというときにどうしてよいか分からない。（消火器の使い方、かまどベンチ・段ボールベッドの組み立て方）
- ・ 体験施設としては、大阪市西区に津波・高潮ステーションがあり、土のうの重さの体験などができる。堺に類似の施設はあるのか。（←【事務局】堺市総合防災センターに市内の小学4年生が訪問している。）

方向性② 子育て・教育、健康長寿などにおける南区ウェルビーイング総合プロジェクト

議論テーマ：高校生が困りごとや悩みを相談しやすくするには

〔悩みごとの解決方法について〕

（高校生）

- ・ 悩みごとは友人に相談することが多い。深刻な内容は親友にのみ打ち明ける。
- ・ 親や部活動関係の身近な人、信頼関係の構築された人に相談することが多い。
- ・ 悩みごとの相談にネットやSNSも使うが、情報の信ぴょう性に疑問がある。
- ・ オンラインの匿名相談の仕組みがあるとよい。
- ・ 高校生は友人関係の悩みごとが多いが、友人には相談しづらい。親にも相談するが、親以外の大人の意見も聴きたい。周囲の大人が声をかけてくれたら相談しやすい。
- ・ 周囲に相談しても求める回答が得られないので、自分で解決しようとすることが多い。
- ・ 他人の相談事は、早く解決してあげたいとの気持ちで助言などをするが、本人は時間をかけて解決したいと思っているために、求める回答が得られないのではないか。

(全体会構成員)

- ・ 相談は SNS など匿名であるのか、保健室の養護教諭のような知っている人にするのか、高校生にとってはどちらがよいのか。
(←8名中7名が匿名がよいと回答)
- ・ 成人でも、他人に相談しても役に立つ助言をもらえないのは同じだが、話を聞いてもらうだけでスッキリするという効果はある。

〔行政への相談について〕

(高校生)

- ・ 行政に子どもが相談できること自体を子どもが知らないので、学校などを通じて知らせてほしい。
- ・ 区役所に相談に行くという発想はない。
- ・ 区役所は混んでいる、待ち時間が長い、というイメージがある。
- ・ 「行政」というと住民異動に関する書類の手続きをするところ、というイメージで、「相談」と結びつかない。自分の「心」を打ち明ける、聞いてもらえる環境であること、そうしたサポートメニューがあることが伝わっていない。
- ・ 「行政」は怖いイメージ。一人では行けない。こんな些末なことで相談してよいのか、と考えてしまう。相談例などが示されるとよい。

〔相談しやすい場所や環境、居場所について〕

(高校生)

- ・ 毎日行きたくなるには楽しさが必要。カフェのようなところでアットホームな雰囲気なら行政に対して抱く怖さが和らぐ。
- ・ 小中学生の頃は、遊ぶ場所といえば屋外しかなかった。雨天でも遊べるよう屋内の遊び場があるとよい。そこに高校生も集まるようにすれば、一緒に遊べる。
- ・ 河内長野市の例では、小中学生向けに NPO 法人が運営する子どもの居場所「ヒーロー研究室」によく遊びに行った。また、未就学児とその保護者が集まれる場所として「あいつく」があり、子ども同士、保護者同士の交流の場として活用されている。
- ・ 屋内型施設であれば、スタッフである大人も常駐しているので保護者も安心して子どもを行かせることができる。
- ・ 施設利用に際し、調べないといけないことがあったり、利用は区民限定などの条件があったりすると、面倒になって行かない。単純な仕組みが望ましい。
- ・ 相談の仕組みがあっても、相談に乗る大人の肩書が専門家や行政職員など仰々しいと、自分の悩みは「そこまでではない」と感じてしまい、相談に結びつかない。
- ・ 以前、泉ヶ丘駅の近くに緑の小さい丘があり、友人とよくそこで集まっていた。そのような単純で簡単に立ち寄れるような場所が高校生には集まりやすい。
- ・ 大蓮公園や周辺の道は、夜間は暗く、学校から駅に行くには遠回りになる印象があり、あまり利用しない。交通アクセスの良さは大切。

(全体会構成員)

- ・ 「まちライブラリー」という取組があり、北海道のある自治体では駅に開設され、無料の自習室として高校生が時間調整などでよく利用している。通学経路の途中にそのような場所があると便利なのではないか。

方向性③ 南区ブランド戦略「みどりとともにかなえる豊かな暮らし」について

議論テーマ：ロゴマークの活用について

(高校生)

- ・ 既にある南区のマークもほとんど知られていない。新たにロゴマークを作るのであれば、どう広めていくかが重要。
- ・ 普段から目に入るところにないと覚えられない。高校生はインスタグラムとTikTokを毎日見るので、SNSを使うのがよい。
- ・ SNSは世界中に開かれたメディアであるが、南区の良さを発信しても、即座に多くの人の来訪を期待することはできない。必ずしもSNSにこだわらなくてもよい。
- ・ SDGsのマークは目に入るいろんなところにあるために、多くの人が概ね認知している。私の高校では校舎の玄関に掲示されており無意識に覚えてしまう。封筒に印刷したり、駅にポスターを掲示したりするのも有効。まずは「なんか見たことある」という存在になることをめざしてほしい。